



## 電気炉

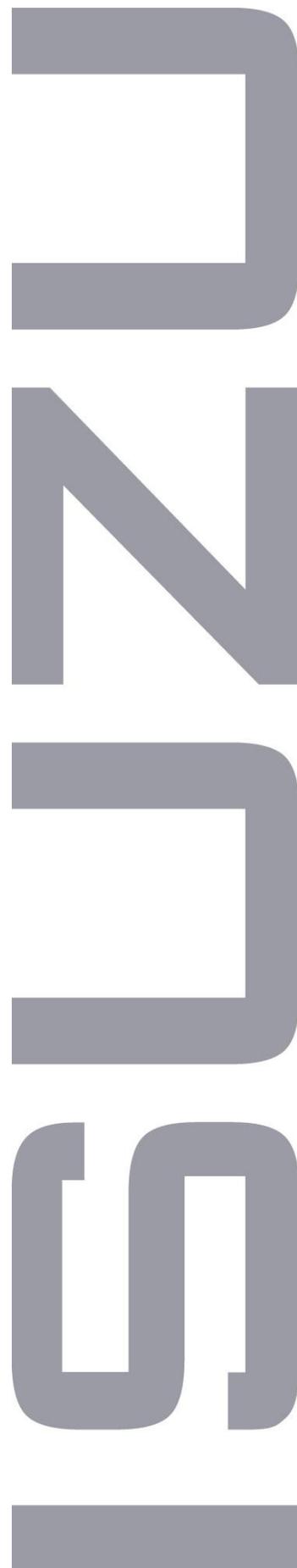
VTDS(底面加熱方式)

VTDW(左右二面加熱方式)

Ver1.0

当社製品を御購入いただきましてありがとうございます。  
お使い頂く前に、必ずこの説明書をお読みください。  
この説明書は電気炉本体に関する説明書です。  
温度調節器に関する取扱説明書は別添しておりますので  
ご参照ください。  
この取扱説明書は大切に保管してください。

株式会社 いすゞ製作所



# 目次

<b>1 安全上の注意</b> .....	2
<b>2 取り扱い上の注意</b>	
2.1 据付時 .....	3
2.2 配線時 .....	4
2.3 操作運転時 .....	5
2.4 保守、点検時 .....	8
2.5 その他 .....	8
<b>3 各部の名称</b> .....	9
<b>4 運転前の準備</b> .....	10
<b>5 運転上の注意事項</b> .....	10
<b>6 「故障かな？」と思ったら</b> .....	11
<b>7 お手入れについて</b> .....	12
<b>8 保証とアフターサービス</b> .....	13
<b>9 仕様</b>	
9.1 VTDS(-2K/R、7.2K/R、16K/R、64K/R) .....	14
9.2 VTDW(-2K/R、7.2K/R、16K/R) .....	14

# 1. 安全上の注意

この製品及び取扱説明書には、安全にお使いいただくためのいろいろな絵表示をしており、その内容を無視して誤った取り扱いをすることによって生じる内容を次のように区分しております。設置、運転、保守、点検の前に必ずこの取扱説明書及びその他の付属書をよく読んで遵守してください。



取扱いを誤ると、生命や身体に重大な被害を受ける可能性が想定される場合。



取扱いを誤ると、危険な状況が起こりえて中程度の傷害や軽傷を受ける可能性が想定される場合、及び物的損害のみの発生が想定される場合。

なお  **注意** に記載した事項でも、状況によっては重大な結果に結び付く可能性があります。

いずれも重要な内容を記載していますので必ず守ってください。

取扱説明書に記載されている事項以外の操作を行った場合による事故については保証期間内でも当社は一切責任を負いません。

## 絵表示の意味



三角の絵表示は **危険**（**注意**を含む）な事項を示しています。  
この絵表示の近くに、具体的な危険（注意）内容を記載しています。



丸に斜線の絵表示は **禁止事項** を示しています。  
この絵表示の近くに、具体的な禁止内容を記載しています。



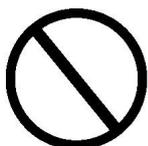
白抜きの絵表示は **必ず実行** してほしい事項を示しています。  
この絵表示の近くに、具体的な指示内容を記載しています。

## 2. 取り扱い上の注意

### 2.1 据付時

#### 危 険

爆発性、引火性ガス雰囲気での使用禁止。



爆発性、引火性のある雰囲気中では絶対に使用しないでください。

本器は防爆構造ではありませんので、スイッチの入り切りの時に火花の発生を伴い、火災爆発の原因となります。

不安定な場所は避けてください。



水平なしっかりした床（台）に設置してください。  
水平に据え付けないと、思わぬトラブルや故障の原因となります。

大電流・スパーク等電氣的衝撃の多い場所は避けてください。



マイクロコンピュータを使用している機種では、電氣的なノイズが多いとコンピュータが暴走して制御不能となって大きな事故や故障の原因となります。

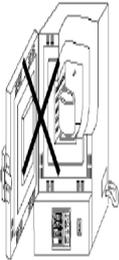
#### 注 意

- 1) 直射日光に当てないでください。
- 2) ほこりや湿気の多いところでは使用しないでください。
- 3) 下部電装部の通気孔を塞がないでください。器体の損傷や精度の低下が起こる恐れがあります。
- 4) 器体を壁や器物に押しつけて据付ないでください。器体の損傷を早めたり、点検、修理の妨げになります。

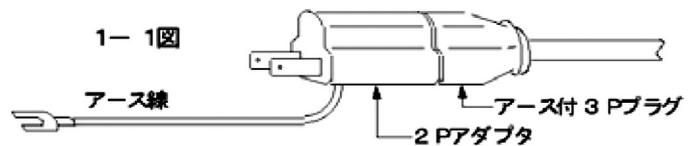
## 2.2 配線時

### ⚠ 危 険

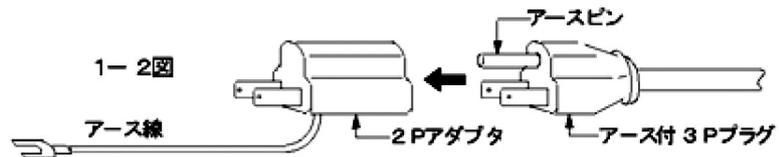
アース線を必ず接続してください。



- ◎漏電による感電事故を避けるため必ずアース線を接続してください。
- ◎アース線はガス管には絶対に接続しないでください。火災の原因になります。
- ◎アース線は電話線のアースや避雷針には絶対に接続しないでください。火災・感電の原因になります。
- ◎100V機種の電源プラグには図のようにアース線がついておりますので、電源設備側のアース端子に接続してください。(1-1図)  
電源設備側にアース端子がない場合にはアース工事が必要です。



アース工事には電気工事の資格が必要ですので、お買いあげの販売店又は電気工事店に依頼してください。



アース付の3Pコンセントがある場合には図のようにアダプタを引き抜くとアース付の3Pプラグになりますので、コンセントに確実に差し込んでください。

電源コードの接続について。



電源プラグのない機種の電源コードの接続は、お買い上げの販売店、または電気工事店に依頼してください。

接続には専門の知識・技能が必要で、一般の方が接続を行うと火災・感電の原因になります。また、電源ケーブルの延長や多数の電源を分岐して使用するいわゆるタコ足配線は装置の性能を低下させるとともにコードの過熱による火災の原因にもなりますので、お止めください。電源はコンセント、または端子台に直接つないでください。

### ⚠ 注 意

- 1) 必ず本体を据え付けてから配線してください。感電、火災のおそれがあります。
- 2) 製品の定格電圧と交流電源の電圧が一致していることを確かめてください。  
製品が破損したり、けが・火災のおそれがあります。
- 3) 長期間使用しないときは電源コードをコンセント又は端子台から外してください。  
火災のおそれがあります。

## 2.3 操作運転時

### ⚠ 危 険

- 1 下記の引火物、可燃物を器体の槽内に入れたり、そばに置いたりしないでください。

火傷、火災のおそれがあります。

#### 【爆発性物質】

- ・ ニトログリコール、ニトログリセリン、ニトロセルローズ、その他の爆発性の硝酸エステル類
- ・ トリニトロベンゼン、トリニトロトルエン、ピクリン酸、その他の爆発性のニトロ化合物
- ・ 過酢酸、メチルエチルケトン過酸化物、過酸化ベンゾイル、その他の有機過酸化物
- ・ アジ化ナトリウムその他の金属のアジ化物

#### 【可燃性物質】

##### 1) 発火性の物

金属（リチウム、カリウム、ナトリウム）、黄燐、硫化燐、赤燐、セルロイド類、炭化カルシウム（別名カーバイド）、燐化石灰、マグネシウム粉、アルミニウム粉、マグネシウム粉及びアルミニウム粉以外の金属粉、亜ニチオン酸ナトリウム（別名ハイドロサルファイト）

##### 2) 酸化性の物

- ① 塩素酸カリウム、塩素酸ナトリウム、塩素酸アンモニウム、その他の塩素酸塩類
- ② 過塩素酸カリウム、過塩素酸ナトリウム、過塩素酸アンモニウム、その他の過塩素酸類
- ③ 過酸化カリウム、過酸化ナトリウム、過酸化バリウム、その他の無機過酸化物
- ④ 硝酸カリウム、硝酸ナトリウム、硝酸アンモニウム、その他の硝酸塩類
- ⑤ 亜塩素酸ナトリウム、その他の亜塩素酸塩類
- ⑥ 次亜塩素酸カルシウム、その他の次亜塩素酸塩類

##### 3) 引火性の物

- ① エチルエーテル、ガソリン、アセトアルデヒド、酸化プロピレン、二硫化炭素、その他の引火点が零下30℃未満の物
- ② ノルマルヘキサン、酸化エチレン、アセトン、ベンゼン、メチルエチルケトン、その他の引火点が零下30℃以上0℃未満の物
- ③ メタノール、エタノール、キシレン、酢酸ベンチル（別名酢酸アミル）、その他の引火点が0℃以上30℃未満の物
- ④ 灯油、軽油、テレピン油、イソペンチルアルコール（別名イソアミルアルコール）、酢酸その他の引火点が30℃以上65℃未満の物

- 4) 可燃性のガス（水素、アセチレン、エチレン、メタン、エタン、プロパン、ブタン、その他の温度15℃1気圧において気体である可燃性の物をいう。）

【以上は労働安全衛生施行令 第6条 別表第一より抜粋】

- 2 可燃性の物質（紙類、布類、木片等）は、その物質の発火点をよく確認してから処理してください。
- 3 紙類、布類、木片等でも、油脂類が付着したり、浸含したものは絶対に器内にいれないでください。
- 4 反応熱が発生する物質を器体の槽内に入れないでください。  
火傷、火災のおそれがあります。



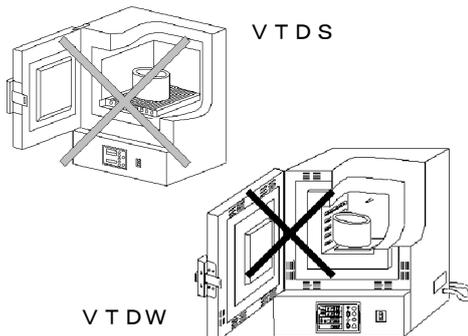
自己発熱をする物質や、異種混合物質で反応熱が発生するような物質は絶対に槽内に入れないでください。火災の原因になります。

本器の過昇防止器は加熱ヒータを遮断するものであり、試料の発熱に対しての保護機能はありません。

5 試料はヒータ入り熱板に接触させないでください。



ヒータ入り熱板に試料を接触させないでください。ヒータの表面温度が異常に高くなりすぐに断線する場合があります。さらに熱板も損傷し、試料の変質や火災の原因になります。試料は必ず炉床板の上に置いてください。



○ヒータの位置  
VTDS : 槽内の底面 VTDW : 槽内の両側面

6 試料を多量に槽内に入れないでください。火災のおそれがあります。



注意一般

処理試料を炉内に置く場合は十分な空スペースをとってください。空スペースが少な過ぎると空気の対流が悪くなり、炉体各部に大きな温度差を生じて試料の処理結果が不均一になり、試料の変質や火災の原因になります。

7 運転中の接触注意



注意一般

運転中や停止直後は、扉や排気口付近には手を触れないでください。高温のため、やけどのおそれがあります。

8 無人運転は要注意



注意一般



火災注意

夜間・休日等、人の居ない状態で運転する場合は十分に注意してください。火災その他思わぬ事故の原因になります。無人で運転する場合にはブレーカ、過昇防止器の設定値、内部上限警報の設定値、その他の安全機能に異常がないことを十分確かめ、周囲の整理整頓を行って燃えやすい物や引火性の危険物は影響のない所へ移動する等、通常以上の注意を払ってください。更に、万一の際の対応策も確立して安全運転に努めてください。

9 電源を落とす前に必ず運転を終了させてください。



注意一般

運転が終了した時は“リセット”キーを押し、“RUN”の表示が消えていることを確認してから電源ブレーカを切ってください。

## 10 エラーが表示された場合

温度調節器取扱説明書の「エラーの表示と対処方法」に記述してある「対処方法」に従って処置をしてください。

### 注 意

1) 本体上面を作業台や物置きにしないでください。



注意一般

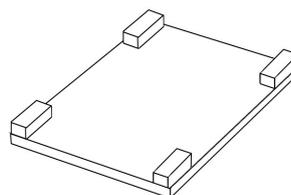
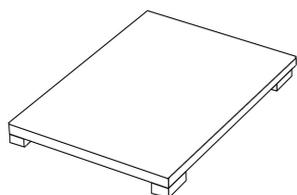
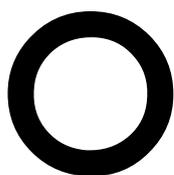
本体上面は非常に熱くなります。物を乗せると器体破損や火災の原因になります。

2) 炉床板は正しく扱ってください。



注意一般

足がある炉床板は4本足を下側に向けて熱板の中央に置いてください。  
また、4本の足がヒータ溝に落ちないように安定させてください。  
ヒータ線が過熱し、溶断するおそれがあります。



## 2.4 保守、点検時

### 危 険

- 1) 電気についての専門の知識・技能を持つ方以外は保守、点検をしないでください。



電気についての専門の知識・技能を持つ方以外は保守、点検をしないでください。  
感電、ケガのおそれがあります。

- 2) 作業前に金属物（時計、指輪など）を外してください。感電、けがの恐れがあります。
- 3) 作業は絶縁対策工具を使用して行ってください。感電、けがの恐れがあります。

## 2.5 その他

### 危 険

- 1) 分解・改造は絶対にしないでください。



本器は絶対に分解改造はしないでください。  
内部には電圧の高い部分がありますので感電の原因になります。  
内部の点検・調整・修理は販売店又は当社に依頼してください。

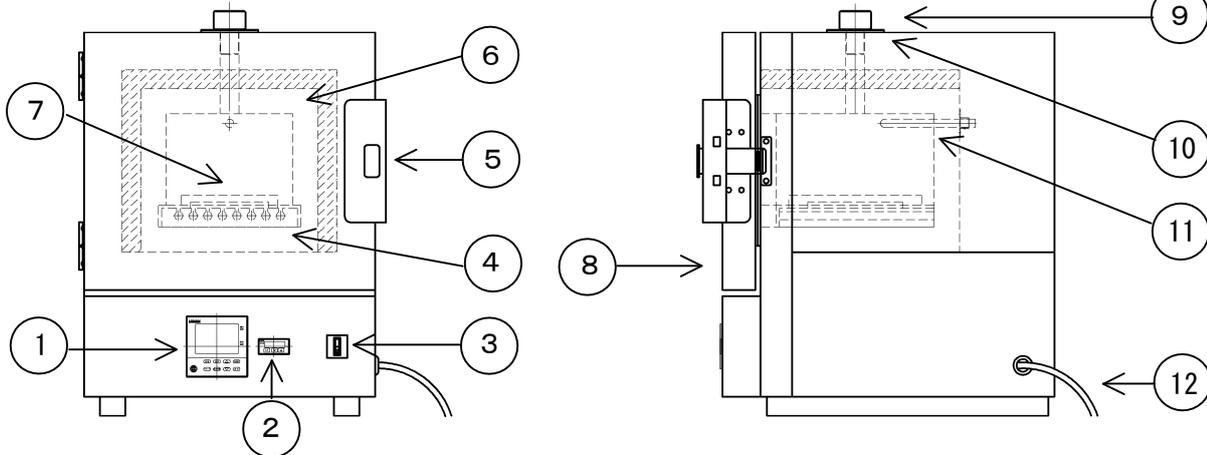
- 2) 頻繁にスイッチの入り切りをしないでください。感電、火傷、火災のおそれがあります。

### 注 意

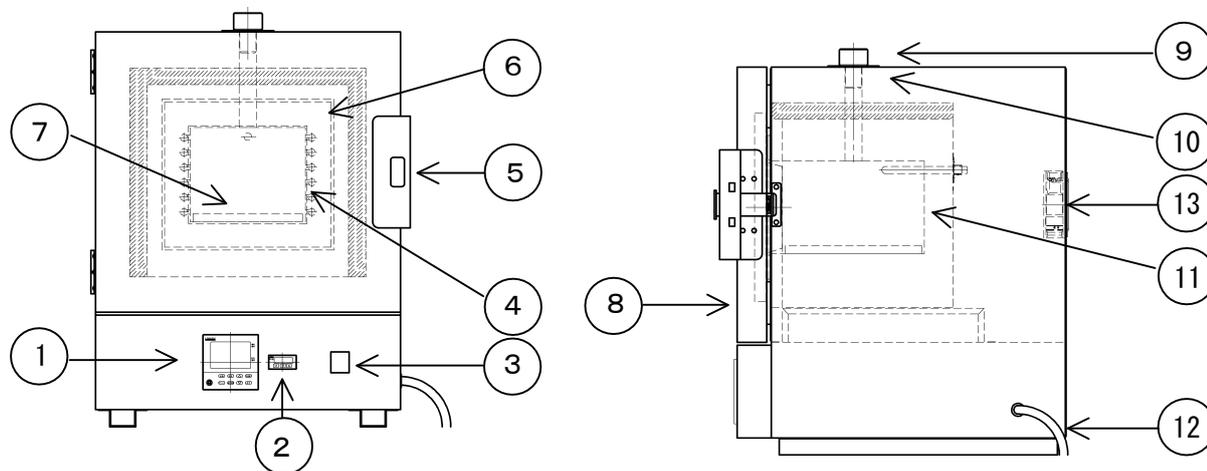
取扱説明書の本文に掲載されているすべての図解は細部を説明するために安全のための部品を取り除いた状態で描かれている場合があります。  
製品のカバー等を外した際には必ず元通りに組立っていることを確かめてから取扱説明書に従って運転してください。

### 3. 各部の名称

#### VTDS-2K/R、7.2K/R、16K/R、64K/R



#### VTDW-2K/R、7.2K/R、16K/R



- ① 温度調節器 : 詳細は別紙温度調節器の取扱説明書を参照してください。
- ② 過昇防止器 : 層内の温度が設定値以上のとき、電源回路を遮断する安全装置です。
- ③ ブレーカ : 本器電源のON・OFF用のブレーカです。
- ④ ヒーター : VTDS=底面加熱方式のヒータ入り熱板です。  
: VTDW=左右二面加熱方式の埋め込みヒーターです。
- ⑤ 取っ手 : 取っ手を手前に引くと扉が開きます。
- ⑥ 炉体 : セラミック形成炉材です。
- ⑦ 炉床板 : 試料を乗せるセラミック製の板です。(付属品)
- ⑧ 扉 : 標準は左蝶番右取っ手です。
- ⑨ 排気孔栓 : 排気孔を使用しない場合にはめ込むセラミック栓です。(付属品)
- ⑩ 排気孔 : 試料から発生したガス等を排気する孔です。
- ⑪ 温度センサ : 熱電対 型式末尾K(JIS K)またはR(JIS R)です。
- ⑫ 電源ケーブル : -2K(R)=100V15A以下 プラグ付き3芯キャブタイヤコード  
: -7.2K(R)=200V-1φ 3芯キャブタイヤコード  
: -16K(R),-64K(R)=200V-3φ 4芯キャブタイヤコード
- ⑬ 冷却ファン : (VTDWのみ) 炉体冷却用のファンです。

## 4. 運転前の準備

本項記載の各項目は「始業点検項目」にもしておりますので、毎回運転を始める前に必ず点検と確認を行ってください。

1. 本器を初めてお使いになる場合は、本紙はじめ別添の温度調節器取扱説明書をよくお読みになり、本器や温度調節器の操作に慣れるまで処理試料等は実装せずに空槽で試運転をしてから本番の処理をされることをお奨めします。
2. 温度調節器ユニットの電源ブレーカはあらかじめOFFにしておいてください。
3. 電源プラグはコンセントに確実に接続し、アースが接続されていることを確認してください。
4. ヒータ入り熱板の上または炉内に炉床板を設置してください。  
足付きの炉床板の場合、足を下にし、熱板のヒータ溝の上にならないようにします。
5. 本器は安全上のため、温度調節器とは別に過昇防止器が標準装備されております。  
運転を開始する前に過昇防止器の設定温度を運転使用温度より+20℃～50℃程度を目安にセットしてください。
6. 本器の周辺に燃えやすいものや揮発性の物質を置かないよう、周囲を整理してください。

## 5. 運転上の注意事項

1. 「8. 保障とアフターサービス」で記載の通り、ヒータ入り熱板は保証対象外となっております。ヒータの断線・熱板の破損は保証期間内であっても有償対応となりますので、ヒータ入り熱板保全の為に以下の項目に注意してください。
  - ① 坩堝や処理試料を熱板の上に直接置いたり、接触させたりしないでください。
  - ② 硫黄分（酸化性ガス）の発生する試料の処理はしないでください。
  - ③ 金属試料の酸化皮膜の剥離物が熱板の上に落ちないようにしてください。
  - ④ 試料を炉床板に置く際は溶融物が熱板に落ちないように十分注意してください。
  - ⑤ ヒータは低融点金属の粉末や蒸気、溶解した塩類、油脂類などの雰囲気さらされると急速に損傷が進みますので注意してください。
  - ⑥ ヒータ入り熱板の熱板素材はしばらく使用されていないと水分を含む場合があります、そのまま使用すると漏電の原因になります。  
運転期間がしばらく空いた後、再度ご使用する場合は無試料にて200℃～300℃で2～3時間程度、乾燥運転を行ってから使用してください。
2. 炉内が高温な状態のまま扉の開けないでください。  
高温時に扉を開けると外気の侵入による熱衝撃で炉内に亀裂が入ったり、崩落する可能性がありますので、扉は炉内温度が100℃以下に下がってから開けてください。

## 6. 「故障かな？」と思ったら

次のような場合は故障でないことがありますので、修理を依頼される前に、もう一度お調べください。それでも症状が改善されない時は、8. 保証とアフターサービス をご覧の上修理を依頼してください。

こんなとき	ここをお確かめ下さい
電源が入らない	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 電源プラグがコンセントから外れていませんか。</li> <li>● 使用電圧は適正ですか。</li> <li>● コンセントに電気が来ていますか。 そのコンセントに他の器具をつなぐと動きますか。</li> <li>● ブレーカはONになっていますか。</li> </ul>
温度が上がらない	<ul style="list-style-type: none"> <li>● “運転” キーは押しましたか。 “運転” キーを押さないと待機状態のままです。</li> <li>● “自動入運転または自動入切運転” モードでオン時間が設定されていませんか。 時間が来るまで温度は上がりません。</li> </ul>
温度の上がりが遅い 温度が低いのに試料が変質する	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 試料を入れすぎていませんか。 槽内は十分な空スペースをとって下さい。 試料を入れすぎると制御センサの感知が遅れ、制御センサが設定温度と同等温度と認識したときには、特に下側の温度は相当に高くなってしまっているため試料が変質する場合があります。</li> </ul>
オートチューニングがかからない	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 低い温度でオートチューニングをかけていませんか。 オートチューニングは設定温度でヒータをON/OFFさせて演算しますが、周囲温度に近い温度では設定温度より高い領域で非常に冷めにくく、降下に時間がかかりすぎて演算できなくなります。 もう少し高い温度でオートチューニングをかけ直してください。</li> </ul> <p>※ オートチューニングは連続運転（定値運転）モード時のみかけられます。ただし待機中ではかけられません。</p>
低温度域での温度制御ができない	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 低温度域では大きなオーバーシュートや設定温度より高めで安定してしまう等、良好な制御が出来ないことがあります。 このような場合には以下の点を確認してください。             <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 設定温度が外気温よりも低くありませんか。 製品の制御補償範囲は <math>23^{\circ}\text{C} \pm 5^{\circ}\text{C}</math> 以内です。 外気温（周囲温度）より高い温度で運転してください。</li> <li>2) 運転温度付近でオートチューニングをかけ直してみてください。</li> <li>3) 槽内に試料を詰め込みすぎていませんか。</li> </ol> </li> </ul>

## 7. お手入れについて

### 7-1 本器の材質について

外装は冷間圧延鋼板にメラミン焼き付け塗装、扉裏板等はSUS443J1で出来ています。

内槽、外装共に長時間清掃しないままにしておきますと、表面に付着した汚れは、しみや腐食の原因となりますので汚れが軽いうちに清掃してください。特に炉床板に付着した物質は処理の繰り返しによって焼き付き状態になってしまうことがありますので、放置せず直ぐに清掃してください。定期的に清掃を実施することで耐久性を高めることができます。

また、ステンレスは非常に腐食し難い金属ですが、塩酸・硫酸等の酸、強いアルカリ溶液、塩水等で錆びる場合があるので、これらの物質を付着させないように注意してください。

### 7-2 清掃の方法

1. ふつうの汚れ及び手あかの場合には、中性洗剤を含ませた柔らかい布で拭き取り、最後によく水洗いをしてから乾いた布で水気を拭き取ります。
2. 落ち難い汚れや油性の汚れの場合には、アルコール、ベンジン等でふき取り、最後によく水洗いをしてから乾いた布で水気を拭き取ります。
3. 点状の錆びがみられる場合には、スポンジまたはステンレスたわしに中性洗剤をつけて拭き取ってください。きれいに除去出来ない場合は粒子の細かいみがき粉でこすり取ってください。市販のステンレス用清掃薬液も効果があります。その後必ず十分に水洗いをして薬液が残らないようにし、更に乾いた布で水気を拭き取ります。

### 7-3 手入れ上の注意

ステンレスの汚れや錆びの原因や状態は、個々のケースによってまちまちですので、あらかじめ部分的に「ためしぶき」して落ち具合を確認してください。

ステンレスは2B仕上げという光輝処理がされています。内槽、外装共にかなりひどい汚れの場合でも目のあらいクレンザーやサンドペーパー、スチールウールなどを使用するのは避けてください。ステンレスの表面を傷つけ、光沢のラインがくずれるばかりでなく、鉄粉が付着しやすくなり錆の原因となることがあります。

市販の清掃薬液を使用する場合には、汚れた部分だけでなくその周辺部も手入れをしてください。部分的な清掃では色むらが残ります。

### 7-4 ステンレスは絶対に錆びない？

ステンレスは鉄やアルミニウムに比べて、はるかに耐食性にすぐれて非常に錆びにくい金属ですが、絶対に錆びない金属ではありません。

鉄は空気中で酸化して錆び易いのですが、SUS443J1は約21%のクロムが添加されて耐食性が向上して錆び難くなっています。

ステンレスが錆び難いのはクロム元素が空気中の酸素と結合して、地金の表面に強固で緻密な不動態化被膜（酸化被膜）を形成し、この被膜が酸化作用を防ぐと共に様々な腐食要因から地金の表面を保護する役目を果たします。このようにステンレスは不動態化被膜が保護膜となって腐食を防いでいます。

もし表面に傷がついてもクロム元素が空気中の酸素と結合して、保護膜が再生されるのでいつまでも美しい外観を保つことができます。

しかし、空気中に浮遊する鉄粉や有害ガス成分、塩分等が付着、堆積すると、これらの付着物が核となり、湿気が加わって固着し、不動態化被膜を傷つけ、更にクロムと酸素の結合が遮断された状態で放置されるとステンレスにもいわゆる「もらい錆び」がみられるようになります。

**このようなステンレスの性質を御理解の上、日頃から清掃を実施して表面を清潔にしておけばステンレスはいつまでも使用当初の美しさを保ちます。**

## 8. 保証とアフターサービス

### 8-1 保証条件

製品は最新の設備と品質管理の行き届いた工場で製造され厳正な検査を経て出荷しております。しかし、万一保証期間内に付属の取扱説明書に基づいた正常な使用方法にも関わらず故障が発生した場合は、製品に添付している保証書の条件に従い無償修理を致します。

但し以下のような場合は保証期間内であっても保証は適用されませんので予めご了承ください。

- ① 誤ったお取り扱いで生じた故障
- ② 不当な修理をされたり、改造による故障
- ③ 火災、地震、天災等の不可抗力によって生じた故障
- ④ 十分な保守を行わないために生じた故障
- ⑤ 設置条件の不備のため生じた性能上への影響及び故障
- ⑥ 製品の設置後に移動、輸送等で生じた故障
- ⑦ 製品から発する音・振動等、機能・性能上影響がない感覚的な現象
- ⑧ 製品を使用出来ないために生ずる精神的及び物理的損失
- ⑨ 保証書の紛失及び提示のない場合
- ⑩ 販売店名及び発行日、捺印が無い場合
- ⑪ 消耗部品及び定期交換部品の故障  
消耗部品・・・ヒータ（注1）・センサ  
定期交換部品・・・ソリッドステートリレー（SSR, トライアック）

### 8-2 保証期間

このシリーズの製品は長期間安心してご使用出来る設計になっております。

製品ご購入時に1年間の無償修理を保証しております。

保証期限を過ぎてからは規定料金を頂いて修理を承ります。

（注1）VTDS：ヒータ入り熱板のみの販売も行っております。

VTDW：埋め込みヒータのため、断線の場合は工場引取り修理となります。

## 9. 仕様

### VTDS(底面加熱方式)

型 式	VTDS-2R/K	VTDS-7.2R/K	VTDS-16R/K	VTDS-64R/K	
内容積(リットル)	2	7.2	16	64	
質量(約)	28kg	40kg	62kg	120kg	
内寸法(W×D×Hmm)	120×190×90	200×250×145	200×400×200	400×400×400	
外寸法(W×D×Hmm)	410×510×590	490×570×650	520×730×730	740×740×960	
方 式	直熱方式(底面加熱方式)				
電 源	電圧	AC 100V-1φ	AC 200V-1φ	AC 200V-3φ	
	最大電流	11.0A	9.5A	11.8A	
	最大消費電力	1.1kW	1.9kW	4.1kW	
使用周囲温度範囲		5~35°C(性能保証周囲温度23°C±5°C)			
性 能	温度範囲	R熱電対 100~1150°C(常用Max 1100°C) K熱電対 100~1050°C(常用Max 850°C)			
	温度変動幅	±1°C (at 1100°C) ±0.8°C (at 850°C)			
	温度分布 (±°C)	500°C	4.0	6.0	7.0
		800°C	4.5	6.5	7.5
		1150°C	5.0	7.0	8.0
最高温度到達時間	約90分	約105分	約90分	約105分	
構 成	ヒータ容量	1.0KW	1.8KW	4.0KW	
	ヒータ材質	カンタル A-1			
	温度センサ	型式末尾R R熱電対 型式末尾K K熱電対			
機 能	温度設定・表示・指示	シートキー入力 4桁11セグメントLED表示(文字高14mm)			
	運転モード/パターン	定値運転・自動入運転・自動切運転・自動入切運転・プログラム運転(6パターン、16ステップ)			
	安全機能(自己診断機能)	設定値異常・センサ断線警報・操作器短絡警報・ヒータ断線警報 PV値警報・停電警報・温度制御器エラー・オートチューニング異常			
外装材/内槽材	電気亜鉛メッキ鋼板メラミン焼付塗装仕上げ/セラミックファイバー				
標準装備	炉床板一式、排気孔栓(セラミック栓)				

### 9.2 VTDW(左右二面加熱方式)

型 式	VTDW-2R/K	VTDW-7.2R/K	VTDW-16R/K	
内容積(リットル)	2	7.2	16	
質量(約)	32kg	57kg	90kg	
内寸法(W×D×Hmm)	120×190×90	200×250×145	200×400×200	
外寸法(W×D×Hmm)	440×520×640	560×620×730	610×720×780	
方 式	直熱方式(左右二面加熱方式)			
電 源	電圧	AC 100V-1φ	AC 200V-1φ	
	最大電流	11.0A	12.5A	
	最大消費電力	1.1kW	2.5kW	
使用周囲温度範囲		5~35°C(性能保証周囲温度23°C±5°C)		
性 能	温度範囲	R熱電対 100~1150°C(常用Max 1100°C) K熱電対 100~1050°C(常用Max 850°C)		
	温度変動幅	±1°C (at 1100°C) ±0.8°C (at 850°C)		
	温度分布 (±°C)	500°C	4.0	4.5
		800°C	4.0	4.5
		1150°C	4.5	5.0
最高温度到達時間	約60分	約50分		
構 成	ヒータ容量	1.0KW	2.4KW	
	ヒータ材質	パイロマックス DS		
	温度センサ	型式末尾R R熱電対 型式末尾K K熱電対		
機 能	温度設定・表示・指示	シートキー入力 4桁11セグメントLED表示(文字高14mm)		
	運転モード/パターン	定値運転・自動入運転・自動切運転・自動入切運転・プログラム運転(6パターン、16ステップ)		
	安全機能(自己診断機能)	設定値異常・センサ断線警報・操作器短絡警報・ヒータ断線警報 PV値警報・停電警報・温度制御器エラー・オートチューニング異常		
外装材/内槽材	電気亜鉛メッキ鋼板メラミン焼付塗装仕上げ/セラミックファイバー			
標準装備	炉床板一式、排気孔栓(セラミック栓)			

●低温恒温恒湿器 ●恒温器 ●電気炉 ●カスタマイズ品 ●気象観測機器 ●アフターサービス

本社

ISUZU CAP 新潟

〒955-0151

新潟県三条市菟堀藤平

1397-42

TEL 0256-46-2200

ISUZU CAP 関東

〒350-1328

埼玉県狭山市広瀬台

2-15-8

TEL 04-2968-4330

ISUZU CAP 東京

〒161-0031

東京都新宿区西落合

3-8-19

TEL 03-3951-1171

お求め、お問い合わせは

## 株式会社 いすゞ製作所

お問い合わせアドレス:

[info@isuzuseisakusho.co.jp](mailto:info@isuzuseisakusho.co.jp)

ホームページアドレス:

<http://www.isuzuseisakusho.co.jp>